

傍聴者の声

紙面の都合上、要旨を抜粋いたしました。(敬称略)

3月議会傍聴者数

3月2日	5名
3日	2名
4日	1名
10日	1名
合計	9名

町民のみなさんの傍聴 ありがとうございました



① 議員発言席のマイクの性能が悪く聞き取りにくい。場内壁面の板張りも声が反射して、聞き取りにくい原因の一つと思われる。(発言者の発音の悪さも一因)

② 一問一答式は時間の無駄である。質問ごとに立ち座りしたり、議長に頭を下げるのは単に議会の権威を作っているだけである。質問は続けて行い、答弁不足の再質問は後が良い。

③ 近頃、新聞・雑誌等に書かれている地方議会の議場内での乱れ(いねむり・私語)等は松伏議会では無かった。当たり前であるが安心した。

④ 大相撲の八百長問題のように、議員と行政側の八百長質疑は全くないか、日頃疑問に思っている。あるなら、議員は不要である。心していただきたい。

(漆原智明)

3・11変化への対応を検証する



計画停電のため集団下校

① 計画停電のため一斉下校する子ども達。地震直後は、防災ずきんをかぶって下校した。



停電中の交差点

② 信号が機能しない交差点は、先生たちも交差点の整理に当たった。

東日本大震災は、3月11日2時46分、地響きのような音をたてて揺れが始まった。なかなか止まぬ揺れに議会は休けいされ、議員は議場を出て町内の被害を心配した。

議会は散会し、町執行部は災害対策本部を設置し、町中に職員が被害状況把握のために散って行った。いざという時、何をすべきか、驚きと共に町に被害があったのかどうか、不安ばかりがつのる究極の一日であった。

その後、議会はさまざま住民要望を執行部に届けながら、計画停電の際には、3階の第2委員会室を利用して審議を進行した。(表紙)

【編集後記】

佐々木ひろ子
東日本大震災被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

3月11日は、日本国民にとつて忘れられない恐怖の1日となった。震災の影響を受けて町民の皆様の、まだまだ心身の不安定を抱えての生活が続いている。震災後、9日目で倒壊された家の中から救出された16歳の孫と祖母がいた。その救出時に、石巻署員が16歳の少年に語りかけた言葉が報道された。「将来、何したい?」と。その後、読売新聞の編集手帳に、「言葉は浅く心は深く」とあつた。どのような言葉も尽くしても何の慰めにもならないほど多くの生命が失われた。若者が未来に希望の持てる社会の構築が急がれる。また「備えあれば憂いなし」である。議会も防災対策の強化に尽力したい。

- 議長 鈴木 勝
- 議会広報発行特別委員会
- 委員長 莊子としかず
- 副委員長 堀越 利雄
- 委員 山崎 正義
- 委員 佐々木ひろ子
- 委員 高橋 昭男
- 委員 広沢 文隆
- 委員 飯島 正雄